

科目名	市民社会論	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	越智 敏夫		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-3-110005	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的	私たちの社会の成立を「市民」という概念を中心に考える。近代市民革命を経た社会、あるいは民主主義的原理によって構成された社会は、それまでの人間が作ってきた社会とは大きく異なる。しかしその誕生は植民地形成と同時進行でもあった。その変動の現在形を<冷戦終焉><9・11><東日本大震災>など多くの状況との関連で議論したい。				
学修到達目標	自己の存在も含めて現代のさまざまな問題を思想的に考える「癖」のようなものを身につけてほしい。それは社会を構造として考えることでもあり、市民としての自覚をもつことでもある。				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	1 はじめに 1-1 市民とは誰か
第2回	2 市民社会を準備するもの 2-1 絶対主義王制
第3回	2-2 個人の誕生

第4回	2-3 国民国家の思想
第5回	3 市民社会の成立 3-1 市民革命
第6回	3-2 公共性と正当性
第7回	3-3 民主主義
第8回	3-4 権力の思想とニヒリズム
第9回	4 <9/11>と市民社会 4-1 冷戦の終焉：湾岸戦争と9/11
第10回	4-2 グローバリゼーション
第11回	4-3 <帝国>の思想とマルチチュード
第12回	5 現代日本と市民社会 -1 戦後とは何か
第13回	5-2 「日本人論」の罫

第14回	5-3 東日本大震災
第15回	6 おわりに 6-1 市民としての私たち
第16回	定期試験

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間 配布資料の予習
【復習】時間・内容	2時間 講義内容の確認、配布資料における事前の不明点の理解

成績評価	
評価基準・方法	成績評価については期末試験の点数のみで評価する。 なお講義内容によっては、講義終了時に受講生にコメントカードを提出してもらいますが、それらへのフィードバックとして、次回講義中、必ずその記述内容に対する教員側の意見を公表する時間を確保する。また、講義全体のフィードバックとしては、定期試験採点后、各年度の答案に共通してみられる傾向や問題点などについて、教員個人のウェブサイト上で公表する。またそれらの傾向や問題点が特に重要で、全受講生に告知する必要があると認められる場合には、大学ポータルサイトの一斉メール配信システムを利用して全受講生に告知する。
フィードバック方法	講義内容によっては、講義終了時に受講生にコメントカードを提出してもらいますが、それらへのフィードバックとして、次回講義中、必ずその記述内容に対する教員側の意見を公表する時間を確保する。また、講義全体のフィードバックとしては、定期試験採点后、各年度の答案に共通してみられる傾向や問題点などに関して公開の必要があると判断されたものについて、教員個人のウェブサイト上で公表する。またそれらの傾向や問題点が特に重要で、全受講生に告知する必要があると認められる場合には、大学ポータルサイトの一斉メール配信システムを利用して全受講生に告知する。

アクティブラーニング	
実施の有無	×
実施内容	

教科書/参考書	教科書なし。参考文献は講義中に適宜指示する。また図書館のサイトの「指定図書リスト」を参照のこと。
受講上の留意点等	本講義の受講によって、それまでの学習の思想的意義を再検討し、他の講義内容がどのように市民社会と思想的に関連しているのかを確認してもらいたい。
JABEE	